

令和元年度福島県ふるさと・きずな維持・再生支援事業

Pre2020 ふくしまみなと未来塾

音楽交流 「福島の声、響き、願い」
実施報告書



令和2年1月10日

特定営利活動法人 Social Net Project MOVE

東京都港区南青山 1-26-16-501 TEL03-5474-7558 Fax03-5474-1461

e-mail for01@themis.ocn.en.jp URL <http://www.smartcitymove.com>

Facebook <http://facebook.com/socialnetprojectmove/>

【1】実施の目的

1. 福島県の高校吹奏楽部・合唱部と港区所在の高校吹奏楽部との合同食事会・意見交流会及び合同演奏会を通して、音楽による地方と都市の新たな交流、連携を創造する。
2. 福島県の音楽文化にふれ、音楽を愛する者同士のつながりを契機に、互いに知り、学び、つながることの楽しさを創造。次世代の交流育成事業として実施する。
3. TOKYO2020 の年、港区を拠点として、これらを世界に都市と地方の新しい連携モデルとして発信する、プレイベントのひとつとして本事業を行う。

【2】実施内容

1. 事業名：音楽交流「福島の声、響き、願い」
2. 実施日時①：令和2年1月12日 午前4時00分～午後7時00分
実施日時②：令和2年1月13日 午後1時00分～午後4時00分
3. 会場①：国立オリンピック記念青少年育成センター
東京都渋谷区代々木神園町3-1 TEL03-3469-2525
会場②：港区赤坂区民ホール
東京都港区赤坂4-18-13 赤坂コミュニティプラザ内 TEL03-5143-2711
4. 参加者①：福島県立会津高校 51名・福島県立郡山高校 31名・福島県立磐城高校 45名・
福島県立湯本高校 42名・東京都立三田高校 19名・国立大学法人東京工業大
学附属科学技術高校 12名 顧問 11名 アテンドスタッフ 10名
計 228名
参加者②：同上にアテンドスタッフ 17名追加 245名
一般参加来訪者 180名
計 425名
5. 主催：特定非営利活動法人 Social Net Project MOVE
共催：港区・いわき市
後援：港区立小学校 PTA 連合会・港区立中学校 PTA 連合会・港区教育委員会・いわ
き市教育委員会・いわき商工会議所・会津若松市・会津若松市教育委員会・福島
県教育委員会
協力：港区福島県人会
6. 事業①：「食事交流会と意見交換会」
 - ・国立オリンピック記念青少年育成センター到着後、会場利用説明と施設の宿泊規定を説明。各自荷物を搬入後、食事交流会で他校生徒同士の交流を持つ。
 - ・食後、あらかじめグループ分けされ、各校混成となったチーム（1チーム30名程度）で、「都市と地方のこれからの連携について」をテーマに意見交換会をワークショップ形式で実施する。

- ・ワークショップは、①都市と地方の魅力、福島県の原子力災害と風評被害、それに立ち向かう日々の生活について意見を交換②それぞれの魅力を知るために、どのような交流がやりたいか、できるか③チームの意見をまとめる④各グループ代表(各校部長、副部長のいずれか)が全員の前で発表する。左記の形式で進行。各チームにMOVEスタッフ及び応援スタッフが参加し、ナビゲーターを務めた。
- ・まとめた意見は、翌日の公演の際、部長もしくは副部長が観客に発表。

「発表会」

- Aチーム 「東京の人が福島に行くことでより交流が深められるのではないかと考えた。今回は音楽だったが、何かしか目的をもって、一緒に何かを行えば、より交流が深まるのではないかと思った」
- Bチーム 「交換留学やホームステイなどをして、地域を学べるカリキュラムを組んでもらうと交流が深められるという考えになった」
- Cチーム 「食べ物で地方の現状や魅力を知ってもらおうというのが出て、地方の魅力を発信する基地を渋谷など中心地に出すという方法もあるのではという意見が出た。また、交換留学をしてより互いの魅力を知るという方法もあると考えた」
- Dチーム 「SNSを使って、地方の食や環境の魅力を発信して交流できたらいいなというのと、せっかく音楽を通して出会ったので、音楽で交流できたらいいなと考えた」
- Eチーム 「交流は、こうして直接会って、魅力を伝えあって、それを周りの人に発信していく。自分たちが交流をもって、戻ってきて、周りの人に伝えるだけでも重要だと思う。それによって、互いの地域の技術とか、文化とかを循環させ、互いの地域がよくなる方向に向かうのだという意見になった」
- Fチーム 「民泊やホームステイといった直接会うこと、物産を送るとかいう形でもできるのではないと思う。交流も一度だけでなく、継続することが大切だ」

7. 事業② 音楽交流「福島の声、響き、願い」

- ・福島県からの来訪4校は、国立オリンピック記念青少年育成センターより、バスにて、港区立赤坂区民センターに午前9時集合。港区内2校は各自午前9時に集合。
- ・下車後、バスは近隣の大型車両駐車場へ移動。福島県の楽器搬送車は搬出後、同所に移動待機となる。港区内からの楽器搬送車は、開催会場地下にて待機。
- ・関係スタッフは午前8時45分より、会場・控室設営、ステージ準備を実施。
- ・午前9時30分より、各校日程表のスケジュールに従い、ステージリハーサル。午後12時30分にリハーサル終了。
- ・定刻の午後1時より開催。終了予定午後3時30分より遅れ、午後4時終了。
- ・各校の公演に際しては、冒頭、代表生徒より、前日の意見交換会でまとまった部グループ意見、交流を通して感じたことをステージで発表した。

【式次第】

①開会のあいさつ 佐川明生副理事長

②来賓あいさつ

港区企画経営部経営部部长 浦田幹男氏

いわき市特定政策推進監 緑川伸幸氏

港区福島県人会会長 古川清氏

③来賓紹介

福島県東京事務所所長 伊藤直樹さま

東京福島県人会副会長 上竹實さま

港区企画経営部全国連携推進担当課長白石直也さま

いわき市東京事務所所長 中澤秀夫さま

IWAKI ふるさと誘致センター実行委員長 作山栄一さま

東京都総務局復興対策部被災地支援担当課長 近藤明さま

④各校顧問紹介

会津高校合唱部顧問 大竹隆先生

郡山高校合唱部顧問 佐藤朋子先生

湯本高校吹奏楽部顧問 小山田浩先生

磐城高校吹奏楽部顧問 橋本葉司先生

都立三田高校吹奏楽部顧問 大波陽平先生

国立大学法人東京工業大学附属科学技術高校顧問 宮原絢乃先生・小佐野隆治・河野志行

【公演】

①福島県立会津高校吹奏楽部

「屈折率」作詩 宮沢賢人 作曲 旭井翔一

「ねむりのもりのはなし」作詩 長田弘 作曲 山下祐

「まぶしい朝」作詩 吉原幸子 作曲 面川倫一

指揮 大竹隆 ピアノ 佐藤菜優

②福島県立郡山高校合唱部

「なごり雪」作詞・作曲 伊勢正三 編曲 濱崎晋

「さよなら」作詞・作曲 小田和正 編曲 濱崎晋

「朝焼けの空に」作詞 みづきみのり 作曲 なかにしあかね

指揮 佐藤朋子 ピアノ 石井廉太郎

③国立大学法人東京工業大学附属科学技術高校吹奏楽部

東京都立三田高校吹奏楽部

両校合同演奏

「CENTURIA」作曲 ジェームズ・スウェアリンジェン

「プロヴァンスの風」作曲 田坂直樹

指揮 宮原絢香 大波陽平

④福島県立湯本高校吹奏楽部

「オリエント急行」作曲 P.スパーク

「たなばた」作曲 酒井格

「サウス・ランパート・ストリート・パレード」

作曲 R.ボーダック&B.ハガート 編曲 岩井直薄

⑤福島県立磐城高校吹奏楽部

「日はまた昇る」 作曲 P.スパーク

「ザ・リングマスターズマーチ」作曲 J.マッキー

「ジュピター」作曲 G.ホルスト 編曲 三浦 秀秋

指揮 橋本葉司

⑥吹奏楽部合同演奏（各校選抜チーム）

「ベイ・ブリーズ」作曲 真島俊夫

指揮 小山田浩

⑦合同合唱奏（参加6校全生徒）

「心の瞳」作詞 荒木とよひさ 作曲 三木たかし

「ふるさと」作詞 高野辰之 作曲 岡野貞一

【福島についての解説】

①「福島と港区とのつながりと歴史」

戊辰戦争、会津戦争と通じて、維新の舞台でもあった港区赤坂、青山と会津藩のつながりに
ついて、理事長秀嶋が解説紹介。

②「福島のいまと未来」

福島県で取り組まれている再生可能エネルギー事業、ロボット推進事業、バッテリーバレー
推進機構の取り組みや農生産者の挑戦の姿を理事長秀嶋が簡単に紹介。福島の未来創造を
都市でも共有しようと呼びかけた。

8. 実行程表 事業①「食事交流と意見交換会」

① 集合場所：県内各校は学校集合・港区内学校は会場集合

② 集合時間：県内各校午前 10 時～11 時
港区各校午後 5 時

時間	内容	備考	担当
14:00 ～随時 着	福島県内高校 4 校バス 4 台着 楽器搬送車 1 台着 到着団体から順次、館内利用上の注意事項と当日のスケジュール説明	大型バス駐車場	誘導担当 長島・赤井
16:00	各校宿泊の部屋割表・ワークショップグループ編成表・寝具の畳方を各校先生・部長に配布(各校 10 部)	野外活動広場 (駐車場横)	藤野・大熊・佐藤・三浦・長島・赤井
17:00	① 東工大付属・都立三田高校「ふじ」前 集合 ② 県内 4 校は順次食堂前に集合	センター棟 2F カフェテリア「ふじ」	赤井・長島 加藤・佐川 ※寝具配布終了後佐藤・三浦・藤野・大熊、食堂待機。

17:45	交流食事会終了 4F 研修室へ移動	センター棟 4F 401・403・405号	藤野・大熊全 体誘導
18:00	<p>意見交換会 ワークショップ</p> <p>テーマ：都市と地方のそれぞれの魅力と自分たちが目指したい交流</p> <p>※グループ毎自由に意見を出し合い、協議して、まとめてください。</p> <p>※進行は各グループに各校部長さんが入っていますので、お願いします。</p> <p>※MOVEのナビゲーターがサポート。</p>	<p>模造紙・付箋・サインペンを各グループに配布</p>	<p>401 担当</p> <p>Aグループ 担当 秀嶋</p> <p>Bグループ 担当 加藤</p> <p>Cグループ 担当 佐川</p> <p>Dグループ 担当 赤井</p> <p>403 担当</p> <p>Eグループ 担当 長島</p> <p>405 担当</p> <p>Fグループ 担当 横尾</p>

18:40	グループ毎の意見発表		
19:00	終了 解散		
13日			
06:30	起床 各校部長・副部長はシート返却 ※清掃・整頓及びシート類の返却は「宿泊利用のガイド」を参照のこと		藤野・大熊 シート受け取り返却
07:30	朝食(バイキングスタイル)	センター棟2F カフェテリア「ふじ」	藤野・大熊 鍵回収返却確認
08:30	出発 バス・楽器搬送車両	大型バス駐車場	藤野・大熊 志賀バスで移動

当旅行代理店：(株)トラベル日本

9. 実行程表 事業①「食事交流と意見交換会」

② 集合場所：県内各校は学校集合・港区内学校は会場集合

② 集合時間：県内各校午前 10 時～11 時
港区各校午後 5 時

時間	内容	備考	担当
08:40	赤坂区民センター集合	① 受付準備 ② ステージ マイク ③ プロジェクタ ー	赤井・加藤・佐川・ 岩崎・木村 秀嶋・長島・久保 田・大竹（音声） 北條（カメラ）
09:00	各校到着・搬送車到着 各校・楽器搬入 ※下車後バス・搬送車は 絵画館前駐車場へ移動	① 吹奏楽部 は楽器を舞台袖へ 搬入。 ※東工大・三田高校 はステージに搬入 ② 合唱部は控室へ	誘導担当 ○海野 （郡山高校） ※郡山控室：5 F 第 1 和室（27 畳） ○藤野 （会津高校） ※会津控室：4 F

		<p>磐城・湯本高校は、 多目的室を合同で 使用していただき ます。</p>	<p>第1会議室 (109 m²) ○大熊 (磐城高校) ○三浦 (湯本高校) ※磐城・湯本控 室：4F多目的室 (147 m²) ○谷口 (三田高校) ※三田高校控室： 5F研修室(74 m²) ○小和田 (東工大付属) ※東工大付属 控室：4F第2会</p>
--	--	--	--

			議室 (45 m ²)
09 : 40	東工大付属・三田高校 ステージリハ	長島、調光操作	音声・照明・カメラ・入れ替え中に
10 : 00	湯本高校ステージリハ		プロジェクター
10 : 30	磐城高校ステージリハ		チェック
11 : 00	合同吹奏楽奏	磐城・湯本の選抜 三田・東工大	小和田・谷口誘導 海野・三浦・小野
11 : 15	合同合唱奏	郡山・会津・東工大・ 三田参加	崎・藤野誘導
11 : 35	会津高校ステージリハ	※吹奏楽部は各校	
12 : 00	郡山高校ステージリハ	で舞台袖、または控	
12 : 25	ステージリハ終了	室に楽器移動。 ※久保田・長島は舞 台下手とセンター にスタンドマイク・ 下手に 5 脚椅子設 置・ピアノ会津高校 の指定位置に移動	

12:30	開場		
12:30	予約入場開始 来賓指定席へ案内		① 受付開始 加藤・赤井・岩崎
12:55	各校生徒・顧問着席 ※会津高校、郡山高校は 荷物を楽屋1・2に移動し て、終了後、ホールからバ ス乗車の移動ができる対 応をお願いします。		② 各校担当は 着席時間に誘導 ※佐川・秀嶋、あ いさつ来賓、ステ ージに誘導
13:00	① 開会のあいさつ 佐川明生副理事長 ② 来賓あいさつ ・港区企画経営部経営部 部長 浦田幹男氏 ・いわき市特定政策推進 監 緑川伸幸氏		

	<p>・港区福島県人会会長 古川清氏</p> <p>③ 来賓紹介</p> <p>・福島県東京事務所 所長 伊藤直樹さま</p> <p>・東京福島県人会副会長 上竹實さま</p> <p>・港区企画経営部全国連 携推進担当課長白石直也 さま</p> <p>・いわき市東京事務所所 長 中澤秀夫さま</p> <p>・IWAKI ふるさと誘致セ ンター実行委員長 作山 栄一さま</p> <p>・東京都総務局復興対策 部被災地支援担当課長 近藤明さま</p>	<p>長島・久保田</p> <p>ステージ椅子・スタ ンドマイク撤去</p> <p>ピアノ指定位置確 認</p>	
--	---	--	--

13:10	会津高校合唱部スタンバイ	離席して舞台袖へ	誘導 藤野
13:15	会津高校合唱部公演 (20分) 代表者意見発表と公演 ※進行司会は生徒さん にお願いします。	久保田、部長にマイ ク渡し 終了後、客席へ	誘導 藤野
13:30	郡山高校合唱部スタンバイ	離席して舞台袖へ	誘導 海野
13:40	郡山高校合唱部公演 (20分) 代表者意見発表 ※進行司会は生徒さん にお願いします。	久保田、部長にマイ ク渡し	誘導 海野
13:55	東工大付属科学技術高 校・都立三田高校 スタンバイ	離席して舞台袖へ	誘導 小和田 谷口
14:10	東工大付属科学技術高	久保田、部長にマイ	

	校・都立三田高校吹奏楽 演奏（20分）代表者意見 発表※進行司会は生徒さ んにお願いします。	ク渡し 終了後、客席へ	誘導 小和田・谷口
14：25	湯本高校吹奏楽部 舞台袖スタンバイ		誘導 三浦・小野 崎
14：40	湯本高校吹奏楽部演奏 （25分） 代表者意見発表 ※進行司会は生徒さんに お願いします。	久保田、部長にマイ ク渡し 終了後、客席へ	三浦誘導
15：00	磐城高校吹奏楽部 舞台袖スタンバイ		誘導 大熊
15：05	磐城高校吹奏楽部演奏 （25分） 代表者意見発表 ※進行司会は生徒さんに お願いします。	久保田、部長にマイ ク渡し	

15 : 35	<p>合同吹奏楽奏</p> <p>「ベイ・ブリーズ」</p> <p>指揮：小山田浩先生</p>	<p>合同演奏選抜チー</p> <p>ムはステージに残</p> <p>留。その他は舞台袖</p> <p>待機。</p>	<p>湯本選抜・東工</p> <p>大・三田参加</p>
15 : 45	<p>会津・郡山・湯本・東工大・</p> <p>三田・磐城合唱スタンバ</p> <p>イ</p>	<p>磐城高校選抜チー</p> <p>ムのみ残留。</p>	
15 : 50	<p>合同合唱奏フィナーレ</p> <p>「心の瞳」</p> <p>「ふるさと」</p> <p>指揮：橋本葉司先生</p>	<p>会津・郡山合唱部・</p> <p>吹奏楽部全員参加</p>	
16 : 00	<p>閉会のあいさつ・各校へ</p> <p>花束贈呈・お見舞金贈呈</p> <p>加藤勝久副理事長・各校</p> <p>担当者</p>		
16 : 05	<p>終了 記念撮影</p>		
16 : 10	<p>吹奏楽部楽器搬出</p>	<p>会津・郡山高校は撮</p> <p>影後、バス乗車先行</p>	<p>控室等ゴミ片付</p> <p>け整頓はアテン</p>

16:15	会津・郡山バス乗車出発		ド担当で行う
17:00	湯本・磐城バス乗車出発		
17:00	会場引き渡し		

【3】成果と今後の課題

(1) 成果

1. 音楽交流の意味と取り組みへの認知度の広がり

=4年目を迎えて、音楽を通じた高校生の交流の在り方が見えてきた=

- ① 「ふくしまみなと未来塾」では、4年前から、毎年、音楽交流を福島県と港区及び首都圏の人々をつなぐ、交流の柱にすべく、実施している。
- ② 全国トップレベルにある福島の文化といってもいい、高校合唱部、吹奏楽部の音楽を体感する中で、福島の現実、福島の課題、福島の拓く逞しい姿を首都圏の方々に伝えることをねらいとしたものである。
- ③ 開催当時は、港区立青山中学校の体育館からスタートした事業は、昨年度より港区行政のバックアップを受けて、区内の公的施設での実施ができるようになってきた。
- ④ 活動を続けて来たことで、当団体が福島の音楽文化を通じて、福島への関心、共感を創造するという姿勢や取り組みは関係者を始め、港区行政や福島県地域行政にも認知されてきている。
- ⑤ 特に本年は、会津高校・郡山高校の合唱部の参加があったことが、さらに関心や興味を呼ぶことにつながっている。また、港区にある東工大付属高校の2年連続の参加と新たに都立三田高校の参加も大きかった。
- ⑥ 定員180名の応募に申し込み350名以上という数字がその関心と興味の高さを示している。半数近くの方にご来場できなかったのは、課題に述べる会場選定の問題として真摯に受け止めたい。



2. 前泊による事前の食事・意見交流会による相互理解の促進

=本年度初の挑戦が次への実施形式のあり方を教えてくれた=



① 国立オリンピック記念青少年育成センターの利用は、不慣れな初の利用で次の項目で述べる課題も多々あったが、意見交流会や相互学習の場として活用できるメリットはあり、音楽ホールを含め、計画の立案がより早くできれば、施設利用の予約と確保及び運営の点でも有用であることが学習できた。



② 食事交流と意見交換会は、初の取り組みで十分な対応ができていなかった反省点はあるが、昨年度公演後、実施した公演会場内での意見交換のアンケートにあった、もっと意見交換したかったという生徒や関係者の要望に応えるものになった。



③ 司会を各校部長、副部長として、高校生同士での意見交換は、相互の音楽や食を通じた交流、福島県の高校生と港区の高校生がホームステイや宿泊研修施設を利用した交流、互いの地域や文化をより学びたいといった提案、意見が自由闊達に述べられ、目的としていた成果は果せた。

3. 演奏公演会による福島への理解と感銘と共感

=言葉でなく、音楽が伝えるそれぞれの思いは、参加者・関係者に音楽の力を伝えた=

- ① 当団体が4年前から音楽交流を実施してきた中で、今回がもっとも参加人数、来場者も多いものになった。受け止め方はいろいろだが、押しなべて、今回ほど福島への理解、共感を呼んだものはなかった。
- ② アンケートからもわかるように、音楽の力と高校生たちの真摯で、質の高い音楽姿勢が人々の心を動かし、こうした結果になったと考える。
- ③ 1. 2. 3を総合して、次に述べる課題を踏まえつつ、参加者も来訪者も共に、より満足し、記憶に残る事業するべく、挑戦を続けたい。



(2) 今後の課題

1. 食事・意見交流会の内容の充実と実施形態の再検討

- ① 国立オリンピック記念青少年育成センターの施設運営のシステムや利用法において、当団体のスタッフ全員が理解十分でなく、運営における不手際が多く、対応が十分でなかった。この施設においては、事前のシュミレーションが関係者全員に今後必要である。
- ② 食事・意見交流会は、当初の目的とした一定の成果はあったが、より交流を深めるためには、通常飲食形式ではなく、パーティ形式にするなど、食事会を通じてより意見交換や互いが知り合う場として見直していく必要がある。(今回はこの形式が予約段階で利用できなかった)
- ③ 意見交流会は、ナビゲーターの力量の差があり、生徒を主役として進行できるチームもあれば、ナビゲーターが進行運営を仕切るというチームもあり、生徒主役の意見交換が不十分な点もあった。今後、こうしたワークショップ形式で進める上では、当団体関係者の事前学習会、研修会などの必要性が明確になった。

2. 演奏会における会場と運営の課題と克服

- ① 4年前に音楽交流を開始したときより、昨年度から規模が大きくなっている。特に本年度は参加6校という規模に拡大した。音楽は、会場の選定によって質や内容に大きな影響を与える。
- ② 今回、実施予算と運営対応の観点から、港区行政で手配していただいた区民ホールを最終的に使わざるえない状況となり、また、その下見も早期に行えず、参加6校の合唱、吹奏楽の演奏会場としては、小規模過ぎ、当団体の対応に不足が多々出る形となった。
- ③ また、タイトなタイムテーブルによる演奏公演のため、演奏者、演奏団体に十分は施設設備の提供ができなかった。これは事前の打合せ調整時間を当団体が十二分に持てなかったことが最大の要因である。
- ④ 4月時点で、港区のメルパルクに予約申請したが2番手候補で結果的に使用できず、港区の提案で取り急ぎ、区民ホールを確保したが、その後、区内ではキャパ1000名のホールがなく、区内にこだわるとサントリーホールのみという現実に直面した。
- ⑤ 今後の対策としては、以下が考えられる。
 - ・早期の事業計画の立案と事前予約の迅速な申し込み。
 - ・そのために、県内参加校、港区及び都内参加校との早期の打合せ。
 - ・当団体だけの力量では、規模の大きな音楽交流の実施は限界があることから、参加校と専門スタッフも入れた合同MTGの実施の必要性。
 - ・こうした体制をとる上でも、民間施設利用する上でも、費用がかさむことから、企業CSRへの協力要請やクラウドファンディングによる実施費用の早期の確保。
 - ・食事・意見交流会の運営と進行についての検討とナビゲーター教育及び人材の確保。
- ⑥ 現状、港区内の施設利用を基本としてきたが、使用料についてはサントリーホールより低廉である新国立劇場大ホール、東京都の関連施設である東京文化会館など地域を広

げての検討も進めていく。

3. 2021 年東日本大震災 10 周年の事業との連系推進

- ① 来年度の福島発信事業の中で、福島県及び各市町村自治体、民間企業が取り組む再生可能エネルギー事業を広く世界に伝える取組や 2021 年震災 10 周年の事業としてどうこの音楽交流事業を組み合わせしていくか。これも本年度「ふくしまみなと未来塾会議」とその拡大の中で検討していく必要がある。
- ② 2021（令和 2 年、令和 3 年）は、再生可能エネルギー事業とこれに伴う福島県の最先端産業を広く知らせつつ、小中学生から高校生に主体を移行させつつ、音楽交流と通じて、音楽にかかわらない生徒たちも含め、産業研究・食の交流・地域文化交流で相互交

流を深める方向へ一層の転換を図る。【4】マスコミ掲載

福島民友 2020年(令和2年)

フィナーレの「ふるさと」で歌声と演奏を披露する県内と港区の高校6校の生徒
＝東京・赤坂区民センター



重なる復興への歌

本県・東京の高校生

都内で演奏会

本県と東京都港区の高校計6校による演奏会「音楽交流 福島の声、響き、願い」が13日、東京・赤坂区民センターで開かれた。東日本震災と東京電力福島第1原発事故から8年10カ月が過ぎる中、生徒たちが福島復興・再生を祈る心と歌声を重ね合わせた。

次世代交流活動「ふくしまみなと未来塾」を展開しているNPO法人ソーシャル・ネット・プロジェクトMOVE（東京）の主催。会津高と郡山高の合唱部、磐城高と湯本高の吹奏楽部が舞台に立ち、港区の東工大付属科学技術高と三田高の吹奏学部が一緒に出演した。全国屈指の実力を持つ本県の高校生の歌と演奏が、聴衆の感動を呼んだ。

4校の吹奏学部が合同で「ベイ・ブリーズ」を披露し、2校の合唱部を迎えてフィナーレを飾った。会場を巻き込んで「ふるさと」などを歌い上げた。

演奏会は、音楽を通じて本県で生きる高校生の思いを届け、地方と都市の新たな交流につなげようと企画された。公演の間には、同法人の秀嶋賢人理事長が本県の現状や港区との関わりを紹介し「今の福島挑戦が世界の未来を動かす」とエールを送った。

福島民友新聞社 全県版
令和2年1月16日掲載

アイド

しにぎわう
 たし揚げやまき割り
 わし 倉津・山形「体験の
 ステ 風をむくまう」運動実
 行委員会主催、N
 青少年、PO法人猪田代研究
 所いなまボの共催
 家族、さまざまな体

験を満喫してほしい
 と毎年、開催し三回
 目。
 雲不足の影響で恒例
 のスノーモービル体験
 やそり遊びは中止とな
 ったが、たし揚げやま
 ユースポーツ体験、タ
 ンス発表など多彩なフ
 ログラムが盛り込まれ
 ら、多くの親子連れで
 にぎわった。
 このうち、福島大と
 NPO法人グリーンエ
 ネルキーユースの



挑戦にまき割り
 まき割りに挑戦する子どもたち

35周年で来月8日から ケート場開設

「8」の日は入場料800円に
 興産 百田とする企画もスタ
 八日と本せる。
 スパ 同社は一九八二(昭
 和五十七)年十月、瑞
 口八 在の稲若駐車場付近
 を臨 に陸内スケート場をオ
 目目 ンさせた。「ハワ
 まで イスケート」の新解
 一八 さから人気を集めた
 と銘 が、駐車場の増設に伴
 伊八 い七年後に閉鎖した。

今回は翌五十五年
 念として二月二十四
 日まで期間限定で、リ
 ンクを復活させる。氷
 を使わず、ワックスを
 塗った樹脂の床約百平
 方メートルを敷き、ハ
 スケートリンクの利
 用時間は午前十時から
 午後五時まで。料金は
 一回三十分で三回。
 「地方と都市のこれ

「福島の声、響き」美しく 東京で音楽交流会



音楽を通じて交流を深めた参加者

東京都のNPO法人「
 Social Net Project」
 MOVIE(ワ)ジュアル
 ネットプロジェクトム
 一〇の音楽交流「福
 島の声、響き、輝い」
 は、東京都の赤坂区民
 センター区民ホールで
 行われた。
 県内四校の吹奏楽

平四小 ランドセルカンボジアへ 善意をお裾分け



平四小 平下平窪の

福島民報社 全県版
 令和2年1月23日掲載

【5】アンケート集計

1. 現地参加者向けアンケート表

NPO等の名称：Social Net Project MOVE

NPO等による復興・被災者支援の取組に関する満足度についてのアンケート

【取組分野：域外との交流】出演参加者向け

取組例：域外からの参加者と地元の交流を主体としたイベントの開催等

1. ご回答いただく方の属性について、下記から選んで○を付けてください。

・性別： 男性 女性

・年齢： 10代 20代 30代 40代 50代 60代
70代 80代以上

・職業： 会社員／公務員 自営業 主婦 学生 無職
その他（ ）

・住居： 仮設・みなし仮設住宅 災害公営住宅 自宅
その他（ ）

・現在の家族構成： 3世帯同居 2世帯同居 核家族 単身

2. NPO等の取組からあなたが受けた効果の度合いをどのように感じていますか。下記の①～⑤の効果のうち、取組内容に関わりのあると思う効果について、1～5から選んで○を付けて下さい。（取組内容と関わりのないと思う効果については、回答する必要はありません）。

①孤立感や不安感が軽減された。地域外の仲間ができる気持ちを持った。

1. 改善した 2. どちらかといえば改善した
3. 変わらなかった 4. どちらかといえば悪化した 5. 悪化した

※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

②被災地に対する理解の促進により、風評被害の軽減に役立った。

1. 改善した 2. どちらかといえば改善した
3. 変わらなかった 4. どちらかといえば悪化した 5. 悪化した

※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

③域外からの来訪、支援の増加につながった。つながると感じた。

1. 改善した 2. どちらかといえば改善した
3. 変わらなかった 4. どちらかといえば悪化した 5. 悪化した

※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

裏面に続きます→

④これからの生活に向けて前向きに活動できるようになった。

1. 改善した 2. どちらかといえば改善した
3. 変わらなかった 4. どちらかといえば悪化した 5. 悪化した

※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

⑤地元の良さを再認識し、誇りを持てるようになった。

1. 改善した 2. どちらかといえば改善した
3. 変わらなかった 4. どちらかといえば悪化した 5. 悪化した

※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

--

⑥上記に該当しない効果があれば、効果内容を記入いただき、その度合いに○を付けて下さい。

効果の内容	
-------	--

1. 改善した 2. どちらかといえば改善した
3. 変わらなかった 4. どちらかといえば悪化した 5. 悪化した

効果の内容	
-------	--

1. 改善した 2. どちらかといえば改善した
3. 変わらなかった 4. どちらかといえば悪化した 5. 悪化した

3. NPO等から受けた（受けている）支援の回数について、下記からあてはまるものを1つ選び、○をつけてください。

1. 1回 2. 2～5回 3. 6～9回 4. 10回以上
5. その他（ ）
4. 今後も、継続してNPO等の支援を受けたいと思いますか。下記からあてはまるものを1つ選び、解答欄にご記入ください。また、その理由をお書きください。

1. そう思う 2. そう思わない 3. わからない 4. その他

番号	理由

5. その他、お気づきの点があれば記載して下さい。

--

設問は以上です。ご協力あり

2. アンケート集計現地参加者

令和元年度 NPO等の絆力(きずなりよく)を活かした復興・被災者支援事業 受益者等による評価アンケート集計表(団体版)											
団体名: 特定非営利活動法人Social Net Project MOVE			音楽交流 福島の声、響き、願い 現地受益者対象 令和2年1月13日実施								
取組分野	設問	選択枝(回答数を記載してください)					記載回答				
域外との交流	性別	男性	女性								
		24	74								
	年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
		96		2		2					
	職業	会社員等	自営業	主婦	学生	無職	その他	その他の回答: 小学生・			
		4			96						
	住居	仮設・みなし仮設住宅	災害公営住宅			自宅	その他	その他の回答: 公団住宅・賃貸アパート・市営住宅			
					97	1					
	家族構成	3世帯同居	2世帯同居	核家族	単身						
		6	17	74							
		1	2	3	4	5	理由、効果の内容、その他等の各項目の記載内容				
	①	31	34	31							
	②	40	35	21							
	③	39	41	17							
	④	45	37	16							
	⑤	46	31	20							
	⑥	13	6	6			・子どもから地域のことを考えるようになった				
	3	36	36		2	19	・不明・受けたことがない				
	4	52	2	34	3		・NPOの活動がわからない・交流の機会が得られるから・支援を受けなくても大丈夫だと思う・支援を通して繋がりを持てるから・支援を受けたことがないから・楽しかった・支援があるととてもありがたいです・地方と都会の学生がかかわる良い機会だと思う・多くの人と交流し、お互いのことが理解しあえるから・たくさんの人に助けられたから・みんなで助け合うことが大切だから・NPOがたくさん活動をしていることが今回理解できた・地元の良い良さがわかるから・人が温かいから・必要な時に支援があるととても助かるから・心の支えになる・地域復興のため・お互いの良さが実感できる・今後のことに興味が持てる・素晴らしい企画だから・地方との貴重な交流体験になった・今は不要だが被災した時はとても有難い・今回の活動にとっても良い影響を受けたから・もっと地域期の良さが引き立つと思う				
	5						今回このような活動の機会ができてよかった・次回はスムーズな運営を期待します・偏見もなく交流ができていると考えている・スタッフが吹奏楽の知識があり、的確な指示や補助ができるとより良い・もっと広くて音が鳴るホールがいい				

3. 港区・首都圏からの参加者向けアンケート表

NPO等の名称：Social Net Project MOVE（来客用）

NPO等による復興・被災者支援の取組に関する満足度についてのアンケート 裏目にもご記入ください 裏面もお願いします。

【取組分野：域外との交流】 県外からの参加者対象

取組例：域外からの参加者と地元の交流を主体としたイベントの開催等

1. ご回答いただく方の属性について、下記から選んで○を付けてください。

- ・性別： 男性 女性
- ・年齢： 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代
80代以上
- ・職業： 会社員／公務員 自営業 主婦 学生 無職
その他（ ）
- ・住居： 自宅 その他（ ）
- ・現在の家族構成： 3世帯同居 2世帯同居 核家族 単身

2. 今回の受けた効果の度合いをどのように感じていますか。下記の①～⑤の効果のうち、取組内容に関わりのあると思う効果について、1～5から選んで○を付けて下さい。

（取組内容と関わりのないと思う効果については、回答する必要はありません。）

①福島県への理解が促進された。

- 1. 改善した
- 2. どちらかといえば改善した
- 3. 変わらなかった
- 4. どちらかといえば悪化した
- 5. 悪化した

※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

②原子力災害の風評の軽減に役立った。

- 1. 改善した
- 2. どちらかといえば改善した
- 3. 変わらなかった
- 4. どちらかといえば悪化した
- 5. 悪化した

※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

③福島県への訪問意欲、支援しようという意欲につながった。

1. つながった 2. どちらかといえばつながった
3. 変わらなかった 4. どちらかといえばつながらない 5. 意欲はない

※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

--

④取組から学んだことをこれからの生活に生かそうと思った。

1. 生かしたい 2. どちらかといえば生かしたい。
3. 変わらなかった 4. どちらかといえば生かしたい 5. 生かそうと思わない

※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

--

⑤今回の取組で共感したもの、有益だったものに○をつけてください。

1. 各校の演奏 2. 合同吹奏楽演奏 3. フィーナーレ合同合唱
奏 4. MOVEからの福島解説・映像 5. 特になし

※「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

--

⑥上記に該当しない効果があれば、効果内容を記入いただき、その度合いに○を付けて下さい。

効果の内容	
-------	--

1. とても勉強になった 2. どちらかといえば勉強になった
3. 変わらなかった
4. どちらかといえばつまらなかった 5. つまらなかった

効果の内容	
-------	--

1. とても勉強になった 2. どちらかといえば勉強になった
3. 変わらなかった
4. どちらかといえばつまらなかった 5. つまらなかった

4. 首都圏参加者からのアンケート集計

令和元年度 NPO等の絆力(きずなりよく)を活かした復興・被災者支援事業 受益者等による評価アンケート集計表(団体版)											
団体名: 特定非営利活動法人Social Net Project MOVE			音楽交流福島の声、響き、願い首都圏参加受益者対象 令和2年1月13日実施								
取組分野	設問	選択枝(回答数を記載してください)					記載回答				
1	性別	男性	女性								
		14	32								
	年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上		
		16	3		12	9	4	4	1		
	職業	会社員等	自営業	主婦	学生	無職	その他	その他の回答: ※学生の内2名をのぞき、小学生			
		10	5	13	18	1	2				
	住居					自宅	その他	その他の回答: アパート			
						42	3				
	家族構成	3世帯同居	2世帯同居	核家族	単身						
		2	4	38	1						
域外との交流	2		1	2	3	4	5	理由、効果の内容、その他等の各項目の記載内容			
		①	31	8	9			・もともと好き・より理解が深まった			
		②	30	10	5			・まったく気にしていないし、風評が残っていることに残念			
		③	33	10	2						
		④	34	10	1						
		⑤	36	23	21	15					
		⑥	13	2	1			・各校の演奏・素敵な音楽に感動した			
	3	9	4				7	・わからない			
	4	26		7				・facebookでイベントを知った・いい取り組みだから・音楽が好きだから・交流はいいことだから・今後の日本に有益な活動となるよう望みます・何から始めればよいのか具体的にわからない災害時のボランティア活動・若い人を応援したいから・楽しみ有益であった・頑張っている学生を見るのはいい			
	5							・大きなホールでたくさんの人に聞いて欲しい・生まれ変わったら福島に生まれていたいと思った・後席の方が騒がしかった・高校生の交流があったのはいいことと思う・今後も港区と福島の交流が続いて欲しいと願う・大きな会場で実施出来たらいいと思う・初参加でしたが素晴らしい体験でした。また是非来たいと思った・とても楽しかった・生の声に接することができることの意義を感じた・合奏・合奏とても素晴らしかった。感動しました。・撮影の可否がわからなかった。・とても感動した。			

【6】収支決算書

A 収入の部

福島県ふるさと・きずな維持再生支援事業補助金	4,305,186
合計	4,305,186

B 支出の部

実施企画調整費	220,000
バス運行費使用料	1,485,228
募集告知印刷費	299,268
印刷原稿制作・管理	386,840
WEB 宣伝制作	110,000
広告宣伝	130,000
施設利用費	39,120
食事交流会食材費	244,200
食事交流会食材費	196,000
撮影費	110,000
搬送費	230,000
レンタカー	105,000
謝金 6 団体	338,500
記録写真撮影委託	30,000
調整旅費交通費	62,000
保険料	30,730
諸費	30,000
合計	4,305,186

C.収支 A-B=0

以上。